

瑞若会から奨学金支給

毎年、全学年の全専攻学生を対象とし、成績優秀者に瑞若会奨学金を交付しています。2017年度は41名に支給。理事会で交付式を行いました。



交付式で通知書を手渡しました 成績優秀者代表と藤本会長

瑞若会から助成金支給

学部学生が国内で開催される全国規模の学会やこれに準ずる学会、及び国際学会で発表する場合、助成金を支給します。交通費と宿泊費の実費として、当該年度において1人1回3万円を上限として支給されます。

入学奨励金の制度について

卒業生・在校生の兄弟姉妹並びに、卒業生のお子様・お孫様が愛知工業大学へ入学した場合、入学後の申請で入学奨励金が支給されます。

寄付金を受け付けています

名古屋電気学園では、寄付を受け付けております。寄付の仕方や寄付をしたことによる減免税等のメリットもありますので、詳しくは学園のホームページをご覧ください。

<http://www.nagoyadenki.jp/support/>

第22回瑞若会定期総会開催

日時：平成30年6月23日(土)
場所：ホテル名古屋ガーデンパレス

表紙写真について

八草キャンパスに昨年オープンした食堂「セントラルテラス」。おしゃれなデザインで、丸い窓が特徴的です。



バイオ環境化学実験棟が完成!



2017年(平成29年)9月に応用化学科のバイオ環境化学実験棟が完成し、10月2日には完成を祝うテープカットも行われました。延べ床面積1576.21平方メートルの鉄筋コンクリート造(一部鉄骨造)4階建ての建物には、DNA組換え室や細胞培養室を完備し、がん治療薬の開発をはじめ最新の研究を進める設備が整っています。



テープカットと後藤泰之理事長の挨拶



1階にあるプロジェクト研究室



3階のDNA組換え室



3階の細胞培養室

「瑞若会特別賞」を授与

日頃の研究の成果や活動を競う工科展は、10月7日に行われ、今年は7団体が参加。審査の結果、「奥川研究室」に瑞若会特別賞を授与しました。

また、11月8日に開催された第37回駅伝大会では、「テンカラ(経営学科)」「チーム情報科学科414(情報科学科)」「剣道部チームB(剣道部)」の3チームに瑞若会特別賞を授与しました。



賞を授与した奥川研究室の展示



学内で開かれた恒例の駅伝



賞を授与した駅伝大会のチーム

愛知工業大学同窓会支部結成のために必要とされる手続き

1. 支部結成発起人(氏名、卒業年、学科)
 2. 支部同窓生氏名(氏名、卒業年、学科、連絡先等)
 3. 支部則原案(見本を作成していますので、参考にしてください)
 4. 支部本部となる連絡場所…連絡先、住所、電話番号記入
 5. 正式に支部として承認されましたら、支部則に基づき支部長、副支部長、会計その他の役員を本部に届ける
- ※職場支部結成については、10名以上の同窓生が在籍していること

会員の皆様へ

ご住所や勤務先などの変更等がありましたらお知らせください。また、地域での同窓会活動の状況など皆様からの情報や、同窓会および会報誌『みずわか』に対するご意見も、お待ちしております。

※下記のメールまたはFAXでご連絡ください。

同窓会・会報誌『みずわか』に関するお問い合わせ、申し込み、ご連絡は 愛知工業大学同窓会事務局 まで

〒470-0392 豊田市八草町八千草1247

TEL 0565-43-1032
月～金 9:00～16:30
FAX 0565-43-1031

e-mail mizuwaka@aitech.ac.jp

※ご登録いただいた個人情報は同窓会に関する案内および大学から依頼された案内の発送のみに使わせていただき、本人の承諾なく第三者に開示することはありません。なお、個人情報の取扱いについては、HPIに明記した瑞若会個人情報保護ポリシーに準じます。

愛知工業大学同窓会誌(瑞若会会報) MIZUWAKA (みずわか)

■発行日/2017年12月
■発行/愛知工業大学同窓会
〒470-0392 豊田市八草町八千草1247
Tel.0565-43-1032 Fax.0565-43-1031
■発行責任者/水野 勝教

■編集/MIZUWAKA Vol.50 編集委員会
石井 成美、岩月 栄治、宇田秀樹、葛谷 新一郎、倉橋 稟、後藤 時政(チーフ)、佐野 泰之、立枕 孝之、津田 紀生、中野 寛之、西 裕之、平松 誠治、福田 雄斗、前田 賢、山田 章、山田 千代美(事務局)、横井 浩治
■印刷/株式会社 大東社 〒494-0003 一宮市三条字大平27 Tel.0586-62-1168 Fax.0586-62-1751

<http://www.ait.ac.jp/>

M I Z U W A K A

瑞若会会報
Vol.50

- 特集 >>> 会報誌『MIZUWAKA』の歩み・冊子へのご意見
- 特集 >>> 思い出のアルバム・思い出のできごと
- がんばるOB >>> 様々な年代のOB が活躍、各学部長にOB が就任

会報誌『MIZUWAKA』の歩み・冊子へのご意見

1966年(昭和41年)に創刊号が発行されてから、今年で記念すべき50号となりました。その間、同窓会の動向や大学の様子、同窓生の方々の近況などを掲載し、瑞若会と同窓生の皆様をつなぐ媒体として発行を続けて参りました。過去の会報誌に思いを馳せつつ、現在の会報誌や瑞若会へのご意見などを伺いました。



創刊号(1966年) vol.4(1970年)
同窓会発足4年後に創刊号を発行。当時は挨拶、活動報告、名簿などが記事の中心でした。



vol.8(1975年) vol.17(1984年)
1960年代半ばから始まった八草キャンパスへの移転が完了した時期で、会報誌にも新しくできた建物の写真が多々見られます。1984年に岐阜県支部と関東支部が、その後も次々に地域支部が設立されました。vol.17から年1回の定期発行になりました。



vol.19(1986年)



vol.22(1989年)



vol.33(2000年)

1990年代までに学内には様々な施設が完成しました。会報誌は、vol.18からサイズがそれまでのB5版より少し小さくなり、vol.22からは表紙が写真やイラストなどを使ったフルカラーのデザインになりました。



vol.35(2002年) vol.40(2007年)
本山キャンパス(2005年)や新本部棟(2007年)が完成。会報誌はvol.35から全ページカラー刷りのA4二つ折り(A5版)サイズになりました。



vol.42(2009年)



vol.45(2012年)



vol.46(2013年)

vol.42からサイズがA4版になり、同窓生が活躍する記事や大学内での研究記事などをより大きく紹介できるようになりました。vol.45では瑞若会創立50周年を記念し、記念行事や50年を振り返る記事を掲載。vol.46から今号までの表紙には学内の建物の一部をクローズアップした写真を使っています。

アンケート

『MIZUWAKA』の記事について

	興味がある	あまり興味がない	どちらでもない
1 特集	70%	25%	5%
2 がんばるOBインタビュー	88%	2%	10%
3 がんばるOBホットボイス(寄稿)	93%	2%	5%
4 OB掲示板	95%		5%
5 入試情報	54%	36%	10%
6 就職情報	69%	21%	10%
7 教員・研究室の紹介	75%	15%	10%
8 クラブ紹介	77%	5%	18%
9 退職教員紹介	71%	11%	18%

■発行回数、発行日、冊子の大きさ、ページ数等について ▶ほとんどの方が現状のままでいいという結果でしたが、中には年2回や年3回の発行にした方が関心も高まるのではというご意見もありました。
■会報誌の果たす役割について ▶大学の情報を知るツールとの位置付けが最も高く、大学の施設の紹介してほしいという意見もあります。次いで本部とのコミュニケーションツールでもあるという結果でした。

ご意見

3 について
退職した同窓生のその後について興味があるというご意見がありました。
5 について
最も関心が高いのはオープンキャンパスの記事で、次いで同窓生入試の記事となっています。
6 について
企業展開催記事への関心は高く、またキャリアセンターとインターンシップについての学生コメントや、卒業生向けの求人検索サービスも関心があるという結果でした。
9 について
退職教員のその後が知りたいというご意見がありました。

思い出のアルバム

~懐かしい、心に残る一コマ~

学生時代を振り返って、思い出深い写真を送っていただきました。クラブや研究室などで仲間とともに撮った懐かしい写真の数々。皆さんにもそんな1枚がありませんか。

邦楽に親しんだ日々が懐かしい

鈴木 俊克(37E)

現代邦楽会会員の影山講師から助言を受け、クラスの仲間と邦楽部を作りました。竹の尺八が手元になく、塩化ビニールで作った尺八で演奏していたのが懐かしく思い出されます。



大学祭の芸能大会に出演

助言を受けた影山先生(2列目の一番左)や、一緒に邦楽部を立ち上げた上村永男君(37E)(前列右から2番目)達と。前列左から2番目が私です。



開学記念文化祭で演奏

開学1周年記念の演奏会が、鶴舞公園内の名古屋市公会堂で行われ、現代邦楽会名古屋地区の方々にも参加をしていただきました。



第1回たけね会での演奏

尺八が竹の根元を中心に作られていることから名付けられた「たけね会」。現代邦楽会名古屋地区の名称で、一番後ろの右端が私です。

卒業時そして5年後の仲間達

加藤 信夫(46D)

卒研は土木工学科の構造班でした。現在も大学で後輩の指導にあたられている奥村哲夫先生(46D)は、同じクラスで学んだ同窓生です。



卒研打ち上げコンパ

無事に卒研発表会が終わり、ご指導いただいた久保直志先生、不破昭先生、助手の丹羽輝雄先生を囲み、瀬戸の料亭で盛大な会を行いました。



卒業5周年記念クラス会

卒業から5年が過ぎ、仕事も慣れた頃に開いたクラス会です。皆元気で、黒く現場焼け(日焼け)して土木屋らしくなっていたのが印象的でした。根橋直人先生、不破先生にもご参加いただきました。

月日の経つのは早いもの

丹羽 健司 (54C)

大阪から愛工大に入学し、卒業して38年の時が流れました。当時は今の学生と違い、しゃれっ気もなく素朴でしたが、夢いっぱい若者だったと思います。



体育館を背に学友と

1977年(昭和52年)に竣工した講堂兼体育館の鉀徳館をバックに林本祐治さん(54C)と。今、このあたりはどくなっているのでしょうか。



奥村重雄先生を囲んで

先生と院生も含めた研究室の仲間で撮影した1枚。卒業研究は「鎮痛剤の合成」でした。

大学祭の看板作りは一大イベント

高松 優 (58A)

所属していた美術同好会の一大イベントが、大学祭のテーマに沿った看板作りでした。大学祭の間は、映画鑑賞やキャンパスコンサートを楽しんだことが思い出されます。



第21回大学祭の看板

ベニヤ板36枚を使って、1ヶ月がかりで仕上げた看板です。自分は幽霊部員に近かったのでお手伝い程度でした。

美術同好会のメンバーと

普段は個々に作品を描いているので、部員の共同作業になる看板作りは、楽しみの一つでした。

学生生活はグライダー人生そのもの

仙石 浩 (58C)

「自分で空を飛びたい!」と思い、航空部に入りました。グライダーをやっていたことで妻と出会い、今の幸せな人生につながっていると思います。



輸送トラックの運転手

大学の格納庫からトラックで滑空場へ運びます。私は主将兼運転手でした。

華麗に大空を舞うグライダー

ウインチ曳して空へ飛ばしたグライダーは、上昇気流に乗ってさらに高度を上げていきます。



愛工大所有のグライダー

「八千草」と命名されたアスティア-CS77型のグライダー。バイトに励んだ部員全員の汗の結晶です。



グライダーが縁で出会った妻

大学祭で展示したグライダーの前で。隣の女性はグライダーが縁で出会った妻です。

厳しくも懐かしい研究室

相城 啓志 (H4J)

情報通信工学科一期生です。岸政七先生の研究室に在籍し、厳しい指導に何度もめげそうになりましたが、ご指導のおかげで社会に出てからいろいろ納得できるようになりました。



苦楽をともにした研究室の仲間

論文執筆で昼夜、皆で頑張ったのを覚えています。その甲斐もあり、第38回の情報処理学会全国大会では、論文数14件で全国9位でした。

大学祭実行委員会一色

三輪 裕之 (H8A)

大学祭実行委員をしていましたが、当時はメンバーも少なく、朝から晩!夜中までも活動していて、部員の半数は留年!という状況でした。



大学祭の会議は全員出席

全員出席が原則の大学祭実行委員会の会議。何年経っても先輩は先輩!いつまでも連絡の取れる仲間たちです。

仲間と楽しみ尽くした1年間

西川(旧姓出野) 聡美 (H19J)

事前の見学で部屋の中の防音室や先生の温和人柄にひかれ、音響関連を研究する井(いのもと)研治先生の研究室に入りました。ここで過ごした日々が良い思い出として心に残っています。

見守ってくださった先生と

卒業研究のテーマは「地震波形の音声化」。先生には研究で大変お世話になっただけでなく、企画したイベントを温かく見守っていただいたことに感謝しています。



楽しい企画が盛りだくさん

メンバー10人で1年間に様々な企画をして楽しみました。誕生会やバーベキュー、スイカ割りなど、中でも流しそうめんは研究室内に竹を設置して行うという狂気の沙汰でした。

思い出のできごと

今なお、深い絆で結ばれている45E卒の皆さんからは、学生時代そして社会に出てから、それぞれに思い出深いできごとをお寄せいただきました。

45E卒 25人衆による 信州卒業旅行 45E卒代表



バスのエンジン復活後、目的地の松本付近での記念写真

1969年(昭和44年)10月、「オーイ、来週卒業記念に諏訪湖と黒部ダム見学に行くゾー」との声かけで25名が参加。2泊3日で諏訪湖周辺の三協精機製作所の見学と紅葉深い黒部ダムの見学に出かけました。

25人乗りのレンタカーを借り、大型免許保持者で運転上手のメンバーの運転で国道19号を信州へ。諏訪湖に向かう途中、国道の工事で迂回させられて、狭い道を走っていたときに車がエンスト。皆バスから降りて車を押し、何とかエンジンも復活して目的地の諏訪湖に到着したことが思い出されます。

諏訪湖は日本のスイスと言われ、精密機器関係が当時の地場産業でした。まず三協精機へ行き、オルゴール組み立て現場を見学しました。若い女性の作業者が器用に組付しており非常に感心したものです。綺麗な山並みや諏訪湖にも感激しました。初日の宿泊先は白樺湖湖畔のだるまや旅館。全員が浴衣姿でカンパイ。旨いお酒と長旅、車のエンスト等で疲れたのか皆さんすぐに深い眠りにつきました。

アクシデントを 乗り越え無事到着

1969年(昭和44年)10月、「オーイ、来週卒業記念に諏訪湖と黒部ダム見学に行くゾー」との声かけで25名が参加。2泊3日で諏訪湖周辺の三協精機製作所の見学と紅葉深い黒部ダムの見学に出かけました。

25人乗りのレンタカーを借り、大型免許保持者で運転上手のメンバーの運転で国道19号を信州へ。諏訪湖に向かう途中、国道の工事で迂回させられて、狭い道を走っていたときに車がエンスト。皆バスから降りて車を押し、何とかエンジンも復活して目的地の諏訪湖に到着したことが思い出されます。

諏訪湖は日本のスイスと言われ、精密機器関係が当時の地場産業でした。まず三協精機へ行き、オルゴール組み立て現場を見学しました。若い女性の作業者が器用に組付しており非常に感心したものです。綺麗な山並みや諏訪湖にも感激しました。初日の宿泊先は白樺湖湖畔のだるまや旅館。全員が浴衣姿でカンパイ。旨いお酒と長旅、車のエンスト等で疲れたのか皆さんすぐに深い眠りにつきました。

2日目は紅葉を見るために美ヶ原へ

翌朝、全員が早起きして玄関先で羽織姿のまま記念撮影。美ヶ原では、強風の中ジャンプした姿を下から写真を撮ってもらい皆さん喜んではいませんでした。夜は青木湖周辺の旅館で宴会。その後、一部のメンバーが湖畔へ散歩に出かけ、途中雨が降り出し帰れず、旅館へ公衆電話から連絡してバスで迎えに来てもらった記憶があります。

最終日は黒部ダムを見学して家路に

最終日は黒部ダムに行き、壮大なダム湖や、電気トロリーバスで発電所を見学後、名古屋へ戻りました。幹事も運転手も大変だったと思いますが、当時、45Eの学生で2泊3日の旅行ができたことは、我々仲間にとっては何時までも良い思い出として残っています。約50年経った今、時々集まって懇親会ができるのも、この旅行が原点にあるような気がします。



紅葉を観るため県道を外れ、紅葉バックに記念撮影。着流し姿のメンバーも

110万V送電に 挑んだ 男達の軌跡 45E卒代表

命がけの難工事に挑む

1989年(平成1年)からの5年間、明日の送配電を支えるため、東北の山岳地帯で高さ120メートルの鉄塔を次々と建て、電線を張り続ける男達がありました。その一人が(株)ヒメノ送電線工事事部の所長だった西川幸一郎さん(45E)。「資材の運搬も含め命がけの難工事で、世界最大のコンクリート圧送装置や大型ヘリコプターの力も借りる壮絶な工事でした」と語る西川さんの笑顔にはやり遂げた男の充実感があふれていました。世界に類のない大工事に感動して当時の足利工業高校電気科主任だった世取山正さん(45E)は、生徒達を引率して2度も現地見学会を実施。そのときの感動は生徒たちの間でも語り継がれています。

超々高電圧技術を結集させた変圧器

一方、110万V送電に対応する変圧器の製作は難問題。電圧が55万Vから110万Vに上がることで巨大な変圧器になっては意味がない。託されたのが東芝、日立、三菱の3社で、長年の研究により各社で培われてきたUHV(Ultra High Voltage: 超々高電圧)技術を結集させ、コンパクトな機器を製作することに各社がしのぎを削ったと言います。東芝で変圧器に関わったのが東芝浜川崎工場で品質保証部長だった

水野政光さん(45E)。変圧器内部を高速で流れる冷却オイルに伴い発生する静電気を低減する問題点等、工場出荷前の限度試験をクリアし、群馬県吾妻郡の新橋名変電所「UHV機器試験場」に於いて3社協力の元、日本初のUHV三相耐電圧試験を無事終了。このときのことを『1000kV変圧器の現地耐電圧試験』(1997年発行)の著者の1人でもある水野さんは目を輝かせて語ります。

日本の110万V送電が国際標準規格に

かくして日本の110万V送電技術が確立して2009年(平成21年)5月国際電気標準学会(IEC)において、日本の110万V送電が国際標準規格として認定され、国内では現在半分の55万V送電で運用されていますが、技術は各社とも完成しています。愛知工業大学卒業生たちの活躍と人類社会への貢献の大きさに心から拍手を送りたい。



送電の工事に挑んだ人々



山あいにある工事現場

OB掲示板

悲願の1部リーグ昇格へ、強力な助っ人



球団退団後、中学生の指導やシニアチームの監督を経て、就任

愛工大硬式野球部出身でプロ野球選手となり、ロッテ時代に首位打者になった平井光親監督(H1K)。プロ選手生活14年、球団の仕事12年という手腕をかわれ、2017年(平成29年)に愛知大学野球リーグ2部の硬式野球部を立て直すために、監督に就任しました。「最初に礼儀やマナーの指導をしました。挨拶はすべての基礎だと思っています。技術指導は選手それぞれに合わせて行っています。ケガなどの原因にならないよう、ネット修理などグラウンドの管理もします。1部リーグへ上がるためには、打力強化が必要です。強いチームにするためには、いい選手を集めることも大事です。今年、高校へスカウトに行きました。来年度入学予定の選手が何名かいます」と監督。

短期間で成果の上がるものではないですが、再び1部リーグで活躍できる日を楽しみに、同窓生の皆さんもぜひ、応援してください。

瑞若会本部



プロでの経験と技術をもとに、選手たちに丁寧な指導をする監督

応用化学科 企業懇談会開催



盛況だった企業懇談会

2017年3月4日(土)に同窓会応化会主催の「在校生と応用化学科OB企業懇談会」を開催しました。応用化学科の卒業生が在籍する企業19社に出席いただき、大学内新食堂(セントラルテラス)の一部を会場として使用させていただきました。

2018年卒業予定の学生さんの就職活動が本格化する時期であったため、大学院生・学部生合わせて79名の参加がありました。各企業ブースには卒業生の先輩方が参加されていたので、在校生にとってざっくばらんな質問ができ、今後の就職活動に活かせる有意義な時間を過ごしていただけたのではないのでしょうか。今回は初めての試みでしたので不手際も多々あったかと思いますが、今後も継続していければと思います。

次回、ご参加いただける企業を募集しています。お気軽に同窓会応化会までお問い合わせください。

藤吉 敦恭(H7C)

●応用化学科55周年記念誌のご案内●

応化の歴史や回想と現況をまとめた記念誌の残部がございます。ご希望の方は応用化学科まで住所とお名前、卒業年、電話番号を書いて、現金書留で送料350円をお送りください。



OB掲示板

関東支部報告

総会と第9回技術セレクションを開催

2017年総会と9年ぶりに技術セレクションを7月22日(土)に品川区立総合区民会館「きゅりあん」にて開催しました。小嶋憲三元副学長(40E)、野崎克己元瑞若会会長(41K)、立枕孝之常任理事(49K)をお迎えし、29名の関東支部会員の参加がありました。

第1部の総会では、支部の目指す「楽しみながらの交流会」を円滑にするため、支部のホームページリニューアルの紹介等を行いました。続いて、第2部の第9回技術セレクションでは、講演と発表をそれぞれ久保統義氏(62K)、河合雅利氏(45E)にいただきました。第3部の懇親会は岩田和彦顧問(41K)の乾杯に始まり、出席者全員による近況報告をして親交を深めました。余興として行った、清酒「4代目瑞若」のじゃんけんによる争奪戦は大いに盛り上がりしました。 支部長 水野 政光(45E)



※総会の詳細は下記HPをご覧ください。

<http://www.mizuwaka-kantoh.club/>

※参加者内訳

電気工学・電子工学・経営工学各6名、機械工学4名、
応用化学3名、建築・土木工学各2名の合計29名

岐阜県支部報告

第8回総会を開催しました



9月9日(土)に岐阜グランドホテルにおいて総会を開催しました。岐阜県支部会員20名、本部役員4名が出席し、役員改選をはじめ下記のような議題について話し合いをしました。

1. 役員改選 支部長・事務局長・会計の三役選出
支部長：中西保幸(51E)、事務局長：辻文男(48D)、会計：太田英二(59K)
2. 今期、同窓会員への連絡方法の構築及び地区別交流会の開催
3. 有志による大学構内の見学と今後の世の中の変貌について意見交換会への参加

支部長 中西 保幸(51E)

地球環境を大切に

今一度、地球環境の素晴らしさを再認識していただけたらと思います。この惑星は幸運にも太陽からの適度な距離(ハビタブルゾーン)に位置し、水と空気(特に酸素濃度)、地軸の傾き、月と近くに木星があり、磁場とオゾン層、適度な比重と重力など、人間が住むことができる最適な惑星ではないでしょうか。我々にとって宇宙の方舟だと思います。美しい地球環境を大切に良い人生を送ってください。 中西 保幸(51E)

北陸支部報告

第10回総会を開催しました



9月23日(土)秋分の日、支部総会をパレプラン高志会館にて開催しました。18名の参加で、決して多くない人数ではありましたが、3年に一度の総会ということで、福井・石川・富山と遠路

各地から参加していただいたことに感謝を申し上げます。総会では、3年分の事業報告、決算報告、並びに今後3年間の事業計画、収支予算、合わせて役員改選と慎重に審議をいただき満場一致で承認されました。そして次回3年後の総会は、30年の節目にあたることから、特別なイベントを企画する旨、申し合わせをしました。

次に、本部の水野勝教事務局長(63R)、津田紀生常任理事(H4R)より、愛工大並びに瑞若会の近況報告をいただき、大学の変遷、成長、発展を誇らしく感じるとともに、今後ますますの期待感が湧いて参りました。

続いて、愛工大OBで一級建築士の、須藤菜緒氏(H20AS)より「あるものを生かして新しいものをつくる」との演題で、基調講演をいただきました。須藤さんは、28才で脱サラ後、空き家を専門にデザインする設計・施工会社を起業され、不動産屋さんとの連携を図り、今までにない発想で事業展開をされており、大変参考になるお話で、興味深く拝聴させていただきました。まだまだ若い起業家さんであり、将来が期待されることから、もし機会があれば他の方々にもぜひ聞いていただければと思います。

最後に懇親会を開催し、昔々の学生時代の思い出話、バリバリの現役時代の仕事の話、そして第二の人生と年金生活の近況報告やらの話の花が咲き、来年の交流会での再会を約束し、散会しました。

支部長 浦田 竹昭(48E)

三重県支部報告

3年ぶりに支部総会を開催

3年に一度の支部総会を9月16日(土)に四日市都ホテルにて開催しました。支部長挨拶に続き、来賓として愛知工業大学キャリアセンター長・学長補佐の津田紀生教授(H4R)の挨拶があり、その後、次のような議事について報告しました。

2014年(平成26年)度から2016年(平成28年)度の事業報告と会計報告があり、2016年(平成28年)11月6日に特別プログラム「あっ!そだ、愛工大へ行こう!」が実施されたことも報告されました。次に2017年(平成29年)度から3年間の事業計画と予算案の発表があり、さらに役員改選が行われました。

今回新役員となられた方々が複数名出席されていて、久々に盛り上がった支部総会となりました。

支部長 松林 巧(50R)



電気工学同窓会報告

電気工学同窓会を開催

10月7日(土)に愛知工業大学構内のアメリカカフェで電気工学同窓会を開催しました。大学からは後藤泰之学長と現職員15名、瑞若会からは山田英介会長代理(46C)と水野勝教事務局長(63R)にご出席いただき、卒業生91名と大学院生8名の参加があり、合計117名となりました。

桜井伸彦会長(56E)より同窓会についての経過報告後、卒業生代表として1回生の若山茂様(37E)より乾杯のご発声をいただき、親交を深めました。

今回、JAZZバンド(Thursday Nights Band)の生演奏も実施し、大変好評でした。

水野 誠三(57E)



なごやかな雰囲気です
集う同窓生達

JAZZバンドによる演奏

2017年度 AIT オープンフォーラム 開催

第117回
2017年9月9日(土)
会場: 岐阜グランドホテル
テーマ: デジタル折紙の建築デザイン
講師: 工学部建築学科 宮本 好信教授

第118回
2017年9月16日(土)
会場: 四日市都ホテル
テーマ: ロケット技術の現状と未来
講師: 工学部機械学科 今野 彰教授

第119回
2017年9月30日(土)
会場: ホテルクラウンパレス浜松
テーマ: ヒトパピローマウイルスと子宮頸がん
講師: 工学部応用化学科 西村 聡子准教授

Pick up ▶ ヒトパピローマウイルスと子宮頸がん 講師: 西村 聡子准教授



現在、日本人の2人に1人が、生涯のうち何らかのがんになると言われており、また日本人の3人に1人が、がんにより死亡しているとも言われ、がんは非常に身近な病気となっています。

がんの発生に関わるリスク要因として、喫煙、飲酒、食事内容など様々なものが知られ、中にはウイルス感染ががんの要因となる場合があります。ヒトパピローマウ

ルスは子宮頸がんの原因ウイルスとして知られており、日本では年間約3万人の子宮頸がん患者が生じ、約3千人が子宮頸がんにより死亡しています。「(1)がんはどのような仕組みで起こるのか(2)ヒトパピローマウイルスはどのようにがんを引き起こすのか(3)がん細胞の増殖を抑える治療法とは」などについて興味深い解説が行われ、参加者はその内容に聞き入っていました。

お客様の土俵に乗って 新たな需要を掘り起こす

加藤 知夫 さん(48M) 株式会社丸ウ製陶所 代表取締役社長

■父のアドバイスで機械工学科へ

「家業を継ぐために、父から兄は応用化学の方へ、自分は機械工学の方へ進むよう言われました」。子供の頃からものづくりに興味があったので、父親の意見は的を得ていたと加藤さんは言います。

卒業後は、いったん別の企業で修業するつもりで工作機械メーカーの就職

試験に合格していた加藤さんですが、「家業の大変さを見ていたので、少しでも早く父たちを手伝った方がいいかな」と思い、丸ウ製陶所へ入社することにしました。

■自動化のための機械設計に尽力

「当社は、昭和元年に祖父が電磁器(絶縁硝子)の製造をしたのが始まりの会社ですが、父の時代に電磁器と並行して製造していた繊維機械部品をファインセラミックスに特化して事業転換をはかりました。

配属されたのは金型部門ですが、並行して機械の開発も任されました。「失敗続きで苦労しましたね。父は大学で学べば機械設計ができ、機械をすぐにでも動かせると思っていましたので、それは大変でした」。粉末成形のプレスに使う機械の設計を任されたものの制御方法がよくわからず、専門書を読み、通信教育で学びながら試行錯誤で行っていたそうです。「学生時代より一生懸命勉強した気がします(笑)」。

入社からおよそ10年、ちょうど産業用ロボットが出始めた時期に自動化に取り組みました。「父が亡くなり社長に就いた兄と一緒に、自動化を進めました。セラミックス部品加工の機械を設計し、社外の人とも協力しながら、様々なアイデアを形にしました」。

加工する製品の種類が多く工程も異なるため、常に新しい機械の導入が必要だと言います。

■現場から経営者の立場へ

「兄が亡くなり社長となってから、経営の難しさを感じています。経営者として、売上アップ、人材の確保や育成、社内の管理など仕事は多岐にわたります。現場のことは責任をもってやってきたつもりですが、経営はまた別だと気付かされました」。



「機械ができる部分は自動化し、人間しかできない仕事を従業員にやってもらうようにしています。機械による自動化が進んでも人員削減などはしません。むしろ、若い人の入社を促していきたいと思っています。セラミックスは製造工程が多く、いろいろな要素が含まれているので、どこかに興味をもってもらえる

のでは…」と語ります。

現在、全従業員の1割弱が愛工大出身者だと言います。「実直で現場でも頑張ってくれるので、とても助かっています」と愛工大生に期待を寄せています。

■海外や他分野へ販路を広げて

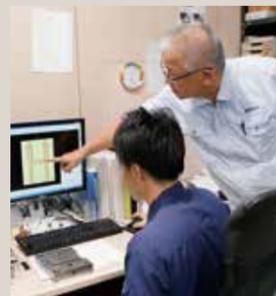
また、5年前からは海外へも進出しています。「今までOEM的な下請け仕事が多かったのですが、オリジナル部品を作り、海外の繊維メーカーへ直接売り込みに行きます。主に中国ですが、安い中国製の部品を使っていたメーカーも、品質の確かさで当社の部品を使うようになってくれました」。販路はイタリアやドイツ、インドなどにも広がろうだと言います。

「化学繊維産業向けセラミックスのトップメーカーを目指して頑張ってきましたが、10年ほど前から医療分野でのセラミックス活用にも取り組んでいます。主に歯科の矯正用ワイヤーの台座ですが、思ったより需要が伸びないことが悩みです」。他にもセラミックスの外科用ハサミの製品化も目指しているそうです。

お客様からの要望に応じて最短期間でサンプルを提供することも販路拡大につながります。「仕事を進める上で、依頼相手の土俵に乗ることが大事ですね」と加藤さんは語ります。



完全に自動化された製造現場



設計図を見ながら担当者と検討

コミュニケーションを大切に 日々、新しい仕事に頑張る

増田 友輔 さん(H29AD) 国土交通省 中部地方整備局 新丸山ダム工事事務所 工事課

■土木の勉強と野球の両立を目指して

土木へ興味をもったのは、静岡に住んでいた中学3年生(2009年)のとき。「駿河湾を震源とする地震で東名高速道路牧之原SA近くの路肩が崩落したのですが、短期間(115時間)で復旧したことに感動し、土木をやりたいと思いました」。

工業高校へ進み、土木の勉強と野球ができることから愛工大へ。

野球を始めたのは小学生から。高校時代はレギュラー選手だったのが、大学では思うようにいかなかったとか。「レベルの高い先輩がたくさんいて、3年生までは試合に出られませんでした。4年生になってようやく先発ピッチャーとしてリーグ戦に出場して勝ちましたが、苦しかった3年間も思い出です」。

■大学での勉強は思ったより大変

「1、2年の頃はとくに苦労しました。工業高校は専門的な学習や実習が多かったのですが、数学や物理など基礎学科を学ぶ時間が少なくて…。普通科から入学してきた友人達に教えてもらいました」。

卒研は「構造研究室」へ。第1希望はハザードマップ作りなどソフト系の研究室でしたが、入ったのはステンレスタンクの強度実験などハード面が中心の研究室でした。「水を入れるタンクの耐震性などを計測したのですが、業者の方々の協力が欠かせない実験でした」。真冬の厳しい寒さの中、屋外でタンクをゆすりながら、水圧や変位、加速度などを調べる実験です。「大変なこともありましたが、業者の方々からは専門的なことを教えてもらうことができました。また、先生は厳しかったのですが、社会に出てから、その教えがとても役に立っています」。とくに「毎日、大学へ来るように」「報告をするように」と先生から言われたことは、毎日の出勤と業務報告が欠かせない社会



人としての基本につながっています。

■社会資本整備の一端を担いたい

中部地方整備局を目指して、3年生の頃から「公務員(教養試験対策)」の講座を受けた増田さん。無事に合格し、新丸山ダム工事事務所へ配属になりました。工事課に所属し、課長と係長、増田さんの3人と業務委託をしている現場監督支

援の方の計4人で、工事の発注から監督までの業務を担っています。「工事の発注段階では届いた見積もりを精査し、契約期限までのスケジュール調整や業者の方との折衝もします」。

監督の業務では「節目、節目で上司と現場へ出向き、工事の進捗などを確認します。現場では年上の業者の方々に対して、無理なお願いをするなど苦労する面もありますが、初めての工法を見る機会も多く、新しい知識を吸収できるので勉強になります」。

現場は複数あり、現在は3つの工事が同時に進んでいると言います。

■自分で勉強しつつわからないことは聞く

工事に変更などはつきもの。「業者との協議が必要な事項を記した協議簿と、事務所から指示すべき事項を記した指示簿というのがあり、監督支援の方から自分へまわってきます。それに目を通して、上司へ説明するのも大事な仕事の1つです」。どんな質問にも答えられるよう事前の準備が欠かせないと言います。「あえて質問をされる場合もあり、何がわかっていないかに気付かされ、教えていただくこともあります」。

とてもいい雰囲気の仕事で、恵まれた環境で仕事ができていると話す増田さん。「自分でかかえこまないようにわからないことは聞くようにしています」。仕事をして

いく上で、上司や業者の方々とのコミュニケーションが大切と語ります。



河川の流路を変更する転流工事の現場



八百津町(岐阜県)にある新丸山ダム工事事務所

長尾 佳春 (55D)
一緒にモノづくりしませんか

創業1962年(昭和37年)の巴産業株式会社(岐阜市)に勤めています。岐阜市本社の株式会社市川工務店のグループ会社7社の一つで、土木工事が中心の総合建設業です。現在、東海環状自動車道の道路工事をはじめ現道の維持修繕、民間外溝、造成工事、水道の漏れ修繕と、地域密着型企業として声がかかればどんな仕事にも対応しています。社訓でもある「汗出せ、知恵出せ、まじめに働け」を合言葉に、日々楽しく熱意をもってこの地域の人に喜んでもらえるよう取り組んでいます。信頼を得て少しでも社会貢献ができる会社であり続けたいと、会社を預かって10年以上何事にも前向きにと思って現在に至っております。

市川グループには毎年多くの愛工大卒業生が入社していますが、現在は新入社員から還暦を過ぎた方まで28人が在籍しています。昨今は誰しも、どの業界も、どの会社も、人で困っていると思います。当社も例外ではありません。働きやすく、気概のもてる会社だと自負しておりますが、アピールできずに求人には苦慮しています。前向きに何事にも向っていただける会社です。在校生・OBの方々、還暦を過ぎた皆さん、一緒に汗を流してみませんか。ぜひ、声をかけてください。よろしくお祈りします。巴産業株式会社(岐阜市大池町3番地の1) TEL 058-252-1275 代表取締役社長 長尾まで



工事現場にて



岐阜市にある会社

山田 英津子 (H7M)
エンジニア一筋20年

三菱エンジニアリング株式会社に入社20年になります。入社後約18年は産業機械の機械設計に従事し、現在は航空機エンジン機器設計を担当する部署でエンジン部品製造に関連するシステム維持・構築関係に従事しています。



旅先のドイツ、シュパンガウのピアレレストランにて

「常に世界と戦える『品質・コスト・納期』を考える」ということを諸先輩方から教えていただきましたが、私たち製造業の環境は例えば設計においては2DCADから3DCADなどツールが高度化し、全体的には様々なデータやモノがつながり、人間に代わってAIがクリエイティブな領域に入り込んでくる時代になり、ツール・システムと人の協働や、付加価値の高い生産性の考慮など、戦い方も変えなければならないこと、その難しさを実感しているところです。また、最近は管理者としての業務も加わり、育成・事業計画など個人ではなく組織での戦略立案に携わる様になりました。

今の職場に移った際、「私も愛工大です…」とか「愛工大といえば〇〇さん知ってる？」等の新しい縁があり嬉しく思いました。これからはこの縁を絆へと進展させ、生かしていきたいものです。

一方、今年は勤続20年ということでリフレッシュ休暇を利用して、会社の同期仲間と旅行することを楽しみにしています。

加藤 傑 (56E)
サラリーマン人生の総括

就職が気になる4年の夏、依田正之先生に相談して北川工業株式会社に入社しました。当時は漠然と「技術を使って営業ができた」という思いがありましたが、人生の転機はノイズ対策商品が上市されたことです。学生時代なぜかフリー変換の本を買って計算していたのでノイズの基礎があり楽しく仕事ことができました。



オフィスにて

30歳になると将来に不安を感じ、ふらっと立ち寄った人材センターで紹介を受けたのが水処理の栗田工業株式会社。当時はバブル絶頂期で、面接だけで中途入社しました。栗田のセールスエンジニアリングは新卒時代の思いと合致し、厳しいながら飽きることはありませんでした。しかし、50歳を過ぎ体力的にきつくなったため、一念発起して会社ニーズの高い施工管理技士の資格を取得。これまでと違った苦労がしたいと異動願いを出し、3年前から本社事業管理部業務課で営業経験を活かした仕事に携わっています。

プライベートでは月1のゴルフ、社交ダンス、週1のジムと、暇が苦痛な性格で忙しくしています。栗田工業の面接は学歴不問なので、チャレンジする後輩が現れることを期待します。最後に私の適性?をみて北川工業を紹介していただいた依田先生に感謝です。

布目 佑介 (H22C)
仕事とプライベート、ともに充実

株式会社成田製陶所に入社して5年目になります。現在は製造技術部に所属し、主にガス機器向けのセラミックス産業機器の工程改善や開発に取り組んでいます。普段は生産工場での原材料の代替試験や量産ラインの改善などが主な仕事ですが、完成した製品の品質検査やお客様からの要望による小規模の試作品開発などに携わることもあります。限りある資源の枯渇もあり、時間に追われた業務もありますが、お客様に満足していただける製品を提供できるよう日々業務に励んでいます。

一方、プライベートでは年に数回程度、国内で一人旅を楽しんでいます。現地を散策して、目にとまった飲食店に入り、食事ついでに店主や常連客の人達に観光スポットや名物などを尋ね、その場で旅の目的を決めることがほとんどです。現地の人と積極的に交流を深めていく中で、居酒屋でお酒を交わしたり、意気投合した美容師の方に翌日散髪してもらったり、旅ならではの人の繋がりを感じました。日常から離れたところの自身の知らない暮らしを知り、その生活に触れることで一回り成長した気がしました。自身が成長できるようこれからも様々な世界を開拓していきたいと思っています。



旅先の店にて



旅先の何気ない風景



同窓生が3学部の学部長に就任

各学部の成り立ちは?

杉野:工学部の基礎ができた昭和30年~40年代は、政治的なものに学生が関心をもっていた時代です。

石井:工学部の学科の一つとして経営工学科が誕生したのもその頃ですね。愛工大は経営工学を早くから取り入れていた大学の一つで、工学的に経営が学べるという点で私も入学しました。

伊藤:経営工学科の設置は、私の生まれ年と同じ、1962年(昭和37年)です。2000年(平成12年)に、経営情報科学部となり、経営情報学科とマーケティング学科が設けられました。

石井:2009年(平成21年)には、情報科学部と経営学部にわかれ、経営学部は2010年(平成22年)からは自由ヶ丘キャンパスに移りました。

時代にあった教育とは?

杉野:工学部は電気工学科からスタートして、現在では5学科10専攻になっています。各学科では、従来の分野に加えて電子情報工学、バイオ環境化学、機械創造工学、防災土木工学、住居デザインなど、新たな専攻が開設され、専攻間の共同研究も始まり、新たな時代に向けた教育研究体制がとられています。

石井:最近、横断的プロジェクトに力を入れています。今年も応募案件

から審査に通った1件のプロジェクトが進んでいます。学科を超えた教育という点では、マネジメントやプレゼンテーションなどは、工学部でも必要だと思います。とくに建築の分野ではコンペなど使う場面も多いのでは…。今後、学部を超えて学べるような環境を整えていきたいですね。

杉野:学部の横断という点では、最近ではメディア情報専攻の学生が、建築学科で行うデッサンの授業などを受けに来ていますね。

伊藤:そうです。メディア情報専攻で行う映像表現には基礎的なデッサン力が必要ですから。

人材育成は?

杉野:もう一つ、最近の流れとして、各大学ではグローバルな視野をもつ人材育成に取り組んでいます。本学も姉妹校の中国・東南大学とは毎年学生間の交流を行っています。今後は、留学制度を一層充実させ、在学中に留学できる制度が望まれます。

伊藤:情報科学部もグローバルな視点がないと成り立たないと思っています。たとえば、ロボカップ世界大会に教員がスタッフとしてかかわったり、学生に国際会議で発表をさせたりするなど日本にとどまらない活動が増えています。

2017年(平成29年)度の学部長は、3学部とも同窓生の教員が務めます。皆さんに学部長としての抱負や瑞若会への思いなどについてお話をいただきました。



工学部長
杉野 丞教授
(52A)



経営学部長
石井 成美教授
(58K)



情報科学部長
伊藤 雅教授
(59K)

石井:実際に社会へ出れば、海外に営業拠点や製造拠点がある企業は珍しくありません。経営学部としてもグローバル人材の育成は喫緊の課題です。

瑞若会を活性化するには?

杉野:大学の中にいると役員の大変さもわかりますし、外と中をどう結ぶかを常に模索しています。

伊藤:会報誌も同窓会と会員をつなぐツールですが、会報誌の編集委員長を務めていたときに、会報誌を通して同窓生の意見を募集したところ、残念ながら、応募はほとんどなかったですね。大学の見学会もやりましたが、予想した人数の半分以下しか集まりませんでした。

石井:教員になってからは、同窓会はとても有意義だと感じています。同窓会に対する啓蒙活動は、卒業生に対して行うとともに、在学生のうちからメリットなどを周知させることが必要ではないかと思っています。在生とOBが接する機会を増やすのも一つの方法ではないでしょうか。

伊藤:セキュリティの問題はありますが、今の時代、ネットを活用するのも手かもしれません。

杉野:いずれにしても、幅広い年代の方々に同窓会に興味をもってもらえるような仕組み作りが必要ですね。



地道な実験と測定によって 成果を追及する有機材料の研究

工学部応用化学科
山田 英介教授(46C)

測定器の発達で進む研究

先生が今、力を入れている研究が「ポリウレタンの合成とコンポジット化」「エポキシ樹脂とポリウレタンのコンポジット(強靱化)」の2つです。

ポリウレタンは、自動車部品やスポーツ用品、日用雑貨など幅広く使われています。ポリウレタンは、軟らかい成分(ソフトセグメント)と凝集力の強い部分(ハードセグメント)から成り、ナノサイズの種々物質を入れることによって相構造を変化させ、その構造と物性の関係を調べています。「例えば、ポリウレタンに層状化合物の有機化クレイや球状構造をしたフラーレンをナノレベルで分散させ、ナノ構造変化を測定します。日々、学生たちが行っているのは分子レベルの実験です。それ自体は手で触れたり、目に見えるものではありませんが、測定器の発達の結果、可視化できるようになり、研究が飛躍的に進みました」。この研究では、ゴルフボールの表皮部のウレタンにクレイを加えて打球感やクラブとの摩擦がどう変化するかをメーカーに協力して行ったこともあるそうです。

先生が今、力を入れている研究が「ポリウレタンの合成とコンポジット化」「エポキシ樹脂とポリウレタンのコンポジット(強靱化)」の2つです。

先生が今、力を入れている研究が「ポリウレタンの合成とコンポジット化」「エポキシ樹脂とポリウレタンのコンポジット(強靱化)」の2つです。



▼学生の発表に先生やメンバーで議論をしながら進める様子

▼引張り試験機を使い、ポリウレタンエラストマーの物性を測定

エポキシ樹脂は、接着性や機械的・電気的特性に優れており、塗料や接着剤、電気部品などにも使用されている材料ですが、硬く脆いという性質があります。エポキシ樹脂の性質を改良し、強靱化するための研究を20年近くにわたり行っています。特に液状のエポキシ樹脂の中で種々のポリウレタンを合成して改質する手法を開発し、これらのウレタン改質エポキシ樹脂の構造と物性の関係を研究してきました。

他にも新たに「環境負荷軽減材料及びリサイクル技術の開発」をテーマに、セルロースなどの天然高分子の利用や有機溶剤を使用しない水成ポリウレタンの合成や複合化を模索しています。

地道な研究に欠かせない チームワーク

有機材料の構造と物性の関係を調べる研究は、年月のかかる地道な実験や測定によって結果が出るものです。結果をまとめるには20年近い年月を要し、さらに実用化するために10年はかかると言います。卒研学生の指導は、研究にはグループでの協力が欠かせませんので、毎週土曜日に2時間のセミナーを行い、学生ひとり一人の意見を聞きながら、皆で議論をし、方向性を確認しながら進めさせます。学生たちには、常々「研究に貪欲になりなさい。他の人のやっていることにも興味を持ちなさい」と言います。また、研究室では「和」を大切にしているようで、ゼミ旅行などを通して研究室内の親睦をはかっています。



騒音対策に関わる研究で 社会的な問題案件に取り組む

工学部建築学科
佐野 泰之准教授(H6A)

社会的に 需要の高い仕事へ転換

「環境振動」「低周波音」「社会音響」「建築音響」の4テーマで研究を進めている佐野研究室。

佐野先生は、民間企業で長年にわたり、コンサートホールの設計にかかわる音響コンサルタントとして仕事をしてきました。「コンサートホールの音響設計の仕事は需要が少なく、騒音対策にかかわる仕事もしていたのですが、ある人から社会的にも貢献度の高い騒音対策を仕事の中心にしてはどうかと言われ、振動や騒音などにかかわる案件に専門的に取り組むようになりました」。

実用化に向けて進む 低周波音の研究

教員となってからは、学生時代に振動について研究をしていたこともあり、「低周波音」の問題を道路管理者との共同研究としてスタートし、7年になります。低周波音は人間の耳には聴こえない100ヘルツ以下の音です。車が通るときに橋が振動し、低周波音が発生するなどして近隣の家が揺れたり、住民が身体的に不調を訴えるなど、影響は少なくありません。橋のジョイント部分をフラットに



▼プレゼン能力を高めるため、学生による研究内容の発表も行われます

するなどの対策もありますが、コストと時間がかかるため、研究室では安価で短期間にできる対策を探っています。

「逆位相の原理を利用した発想により、振動から出る音を相殺するような音を出す装置を考え、実験を繰り返しながらデータを取っているところ」と先生。「学内で20分の1の橋の模型を造り、実験を行いました。そのデータをもとにしたモードアニメーション(振動の形状)からモード解析をします」と話す学生。実用化に向けてかなり研究が進んでいると言います。

環境振動を研究し 対策を立てる

日常生活を送る上で、不快な振動をなくす一環で「建物振動」について研究するグループもあります。「たとえば、建物の揺れの範囲に合わせて人が歩くと、共振がおき揺れがさらに強くなります。昨年、10号館の渡り廊下と技術総合研究所に振動を測定する装置を置き、ピッチを変えて歩いたときの振動の状況を測定しました。結果はピッチや履物によるパラツキが少ないことがわかりました。今年は引き続き、「なぜパラツキが少



▼振動低周波音実験室で測定をする研究室の学生達



ないか」「どういう条件下でバラツキが出るのか」を課題に、建物の揺れや人が歩くときの条件による差異について研究中だと言います。

他にもプールの音環境対策としてタイルメーカーと吸音タイルの開発をしたり、道路交通振動を予測するための予測式を作成するなど、社会的に問題になっている案件に様々な形で協力をしています。

学生たちに望むこと

現在、研究室には13名の学部生が所属し、研究テーマごとにグループで実験などを行っています。研究は社会で役立つことが大事だと考えているので、結果を重視していると言います。「学生達には、現象を把握する力をつけてほしい」と話す先生。

社会へ出てからは自分の考えにこだわらないようにとも伝えているそうです。先生自身が学生時代の考えと社会に出てからの考えが変化したという経験があるからだと言います。「初めて受ける仕事も多々あると思いますが、対応できる能力を身に付けてほしいと考えています。大事なのは、わからないことを聞けるような人的ネットワークの構築ですね。いずれは聞かれる人になってほしいと願っています」。

同窓生特別入試で愛工大へ!

開学50周年記念事業の一環で始まった同窓生特別入試は、同窓生のご子息のために設けられた制度です。小論文と面接による選考が行われます。入学金の優遇制度もありますので、ぜひ、ご利用ください。詳しくは入試広報課へお問い合わせください。

スケジュール
[2018年度]

小論文・面接(口頭試問を含む)
工学部・経営学部・
情報科学部…10/28(土)

合格発表
11/6(月)

入学手続
入学金…12/7(木)
指定書類・学納金等
……………1/10(水)

※検定料35,000円

専攻	2018年度		専攻	2018年度		専攻	2018年度	
	男	女		男	女		男	女
電気工学専攻	10	0	機械創造工学専攻	0	0	経営情報システム専攻	10	0
電子情報工学専攻	1	0	土木工学専攻	0	0	スポーツマネジメント専攻	0	0
応用化学専攻	0	0	防災土木工学専攻	0	0	コンピュータシステム専攻	0	0
バイオ環境化学専攻	0	0	建築学専攻	1	1	メディア情報専攻	1	0
機械工学専攻	0	0	住居デザイン専攻	1	0	合計	13名	1名

多彩な入試制度を用意しています!

★早めの合格を目指すなら ▶ **推薦入試** (スポーツ推薦) (女子学生推薦) (一般推薦) **出願は10月からスタート!**

★今からでも間に合う ▶ **一般入試** (下記日程) **1月以降の出願で受験できます。**

■今からでも間に合う入試日程

※出願に関して、すべてメ切り消印有効です。

入試区分	入試の名称	出願期間	試験日	実施学部	試験会場	合格発表日	
前期日程	一般入試	前期日程 A方式	1/27(土)	全学部	本学(八草キャンパス・自由ヶ丘キャンパス)、一宮、豊橋、岐阜、四日市、津、浜松、静岡、富山	2/9(金)	
			1/28(日)				
	センター試験利用入試	センター1期C方式(3教科利用)	1/6(土)~19(金)	1/29(月)	本学が課す試験はありません。	—	2/15(木)
			センタープラスA方式	独自の試験はありません。	—		
後期日程	一般入試	後期日程 M方式(マークセンス)	2/2(金)~23(金)	全学部	本学(八草キャンパス)、豊橋、岐阜、四日市、津、浜松	3/9(金)	
			センター試験利用入試			センター2期C方式(2教科利用)	2/23(金)~3/2(金)
	センター試験利用入試	センター3期C方式(3教科利用)	本学が課す試験はありません。	—	—		

[入試に関するアレコレ、ここでチェック! ▶▶▶ <http://www.ait.ac.jp/nyushi/>]

2017オープンキャンパス開催!



受付でパンフレットを配布



オープンキャンパス説明会



理工系ガール相談風景

2017年7月22日(土)、23日(日)の2日間、八草と自由ヶ丘の両キャンパスで開催され、5千名を超える来場者(高校生4113名、保護者938名、一般422名)で賑わいました。

八草キャンパスの「オープンキャンパス説明会」の会場や、「入試相談コーナー」「理工系ガール専用ブース」「個別相談コーナー」などでは、熱心に話を聞く高校生や保護者の方々の姿が見られました。女子高校生の質問に現役の女子学生がマンツーマンで応える理工系ガール企画のコーナーも大盛況。恒例となった「女子学生パネルディスカッション」で多くの観客が女子学生の発言に耳を傾ける様子は、女子高校生の理工系大学への関心が年々高まりつつあると感じられる一コマでした。

また、実際に各学科・専攻の内容や研究の様子などがわかる「専攻デモンストレーション」は、八草キャンパスでは61のテーマで、自由ヶ丘キャンパスでは12のテーマで実施されました。

高校生や保護者だけでなく、地域の方々にも開放しているオープンキャンパスですが、自由ヶ丘キャンパスにある経営学科は「地域創生」をテーマに近隣の商店街と連携した企画展示をしたり、子ども向けのイベントを開催するなど、地域に開かれた大学の雰囲気到来者の方々からは好印象の感想が聞かれました。



機械学科のデモンストレーション(装着型ロボット)



自由ヶ丘キャンパス(個別相談)



自由ヶ丘キャンパス(お菓子作り)

入試に関するお問い合わせ | 愛知工業大学・入試センター TEL 0120-188-651 (入試広報課) FAX 0565-48-0024 e-mail nyushi@aitech.ac.jp

キャリアセンターの支援や有効利用について 広く同窓生の皆さんに知ってほしい!



1号館の2階にあるキャリアセンター

在学生から卒業生まで、きめ細かなサポートをしています

大学入学時から卒業後まで、学生の成長をサポートするのがキャリアセンターです。漠然としたイメージで入学してくる学生も少なくありません。将来のイメージをつかめない学生が、4年間で人生設計を描けるように早い段階から仕事のイメージをつかめるような支援を行っています。

1年から3年の学生には、インターンシップのサポートをします。異業種の体験や社会経験を積むためにもいい制度です。2016年度は、1年間で350名余の学生が参加しています。

4年の学生には、なるべく望むところへ就職できるように、各専攻の先生方とも密に連絡を取りながら支援しています。また、最

近は大学院へ進む学生も増え、院生の就職サポートにも力を入れる必要性を感じています。

企業訪問や就職試験の結果が芳しくない場合は、センターのスタッフが徹底的に話を聞き、弱点を明確にしながらかみを引き出すように根気強く指導をしています。

在学生だけでなく、卒業生向けの支援も行っています。転職希望などがあれば、キャリアセンターの卒業生就職支援のサイトの既卒者求人検索MENUから新規登録をしてほしいですね。既卒者用の求人サイトを閲覧できますので…

求人活動を支援しています

同窓生のかかわる企業からの求人を随時、受け付けています。とくに大々的な求人活動をしばらく個人事務所や中小規模企業には、個別に学内ブースを提供して企業説明会など求人活動をしていただきます。こうした個別の説明会は、企業展などとは異なり、本当に興味のある学生が訪れるため、マッチングしやすいという利点がありますので、ぜひとも、キャリアセンターへご相談ください。

キャリアセンター長 津田紀生(H4R)



2016年(平成28年)度就職実績について

愛知工業大学は、2016年度も97.1%と高い実就職率を誇っています。これは、全国でも4位と極めて高い数字です(卒業生数1000人以上の全国240大学の実就職率ランキング:サンデー毎日2017年8月6日号より)。

【実就職率】2017年3月卒業生

大学全体	工学部	経営学部	情報科学部
97.1%	98.2%	94.2%	95.4%

実就職率(%)=就職者数÷(卒業生数-大学院進学者数)×100

求人のご依頼について

求人の際は、下記から一括で求人票の登録ができますので、ぜひ、ご利用ください。

WEB求人登録システム
URL <http://www.kyujin-navi.com/uketsuke/>

卒業生向けの求人検索サービスのご案内

卒業生の方が、「既卒者可」の求人が検索できるサービスを実施しています。下記のアドレスから登録していただき、ご利用ください。

既卒者求人検索
URL <http://www.ait.ac.jp/career/center/>

瑞若会主催の学内企業展を開催

在学生への就職支援の一環として、瑞若会では2011年(平成23年)より学内で企業展を開催してきました。現在、全学年対象のイベントとして定着しています。

2017年(平成29年)度は、5月20日(土)に開催し、午前の部には35社の企業と127名の学生が、午後の部には35社の企業と115名の学生の参加がありました。

【2018年度開催のお知らせ】

2018年度も5月頃に「瑞若会企業展2018」を開催する予定です。参加希望の企業様は、2018年3月末頃に、キャリアセンターへご連絡ください。詳細のご案内をさせていただきます。

※応募多数の場合は、ご参加いただけない場合もございますので予めご了承ください。



瑞若会企業展の会場となるAITプラザ

インターンシップ制度について

在学中に企業で職場体験をするインターンシップ制度を活用した就職支援を行っています。

インターンシップに参加して

3年の6月頃からキャリアセンターに週3回ほど顔を出していました。先輩から話を聞き、キャリアセンターの方からもすすめられて3年の夏に1回、冬に2回の計3回参加しました。

電気工場の現場監督を希望していたので、施工管理会社で夏の2週間、現場を体験し、コミュニケーションの大切さを学ぶことができました。1月には自動車のエンジン部品の会社へ行き、1日だけでしたが現場の様子や自動車業界の話なども聞くことができ、有意義な体験でした。2月に行った工作機械メーカーでは、開発の仕方を実際に体験し、開発の仕事の面白さも知りました。3社の体験を通して、自分の希望も施工管理会社から製造業へと変化しました。

インターンシップを活用したおかげで、業種の絞り込みが早い段階ででき、内定につながりました。やはり目標がはっきりしていると就活もスムーズにいくと思います。

インターンシップ受け入れ先を募集しています!

学生のインターンシップへの参加を積極的に推進しており、具体的な進路に対する考えを深める機会と考え、キャリア教育の一環として位置付けています。インターンシップでの経験を通して、就職時のミスマッチを減らし、それぞれの学生に合った職業選択につなげていければと考えておりますので、ぜひともインターンシップ制度における学生の就労体験へ、より多くの機会を与えてくださいますよう、お願い申し上げます。

詳細については、下記キャリアセンターまで、ご連絡をお願いいたします。



就職に関するお問い合わせ | 愛知工業大学・キャリアセンター TEL 0565-48-4655 (直) FAX 0565-48-6140 e-mail syusyoku@aitech.ac.jp

2017年3月に退職された教員



在職中の思い出

一貫してスポーツと視覚認知の研究をしてきました。これも恵まれた研究環境だったからと感謝しています。研究成果は任天堂のソフト「DSメカカトレニング」に結実し、世界で320万本の大ヒット商品となりました。世界の人々が私の監修したソフトで楽しんできたことは研究者としてこの上ない喜びです。また、縁があり人気テレビ番組「世界一受けたい授業」に13回出演する機会があり、視力だけではなく「メカカ＝見るチカラ」が人にはあることを知ってもらうことができました。愛知工業大学に勤めることができ良かったと感謝の日々を送っています。【石垣】

日立製作所で大規模集積回路の設計・開発業務に従事後、着任して16年になりますが、夜間を含め198名の卒研生、18名の修士課程学生を送り出しました。卒研と修士論文発表会終了後の打上げ、院生や4年生と参加したシンポジウムで他大学・企業の方と議論をしたこと、研究室でのバーベキューや、2次会のカラオケなど学生達との交流が強く印象に残っています。大学の主役は学生だと実感します。一方で工学部長4年、大学院工学研究科長2年と、職員・教員の方々に支えられて大学運営に携わられたことは貴重な経験でした。

着任時の旧5号館は、広い廊下とゆとりの間取りで昭和の薫り満載でした。また、新1年生ゼミの1コマとして隣接する里山体験ゾーンを散策しましたが、愛・地球博開催時はガイド付きでしか入場できず長蛇の列でした。「万博は小学校低学年のときであまり記憶がない」と昨年1年生に言われ、「万博も遠くなりにけり」、時の流れの速さを感じます。【江口】

大学からの割愛願いが届いたのは、電電公社横須賀研究所にて携帯電話の実用化で奮闘していた昭和61年の秋でした。電電で開発したデジタル信号処理理論を学生達と研究・発展させられるかという不安もありました。日本の大学で第一号となるCray社製スーパーコンピュータの導入や、情報通信学科の新設など不安を払拭するできごとに出ても新たな感謝が胸が熱くなります。残る問題は学生が満足する教育環境の確立です。高機能なパソコンを揃え、学生が自由に利用できる環境を整えるのが教員の務めと考えましたが、準備資金は500万円弱とパソコン教室設備資金には不十分。学生が自前で購入するパソコンに頼るのでは「学生1流、教員失格」となりかねません。通信機能搭載の1台300万円超のパソコン200台が必要と算出し、限られた準備資金で魅力あるパソコン教室を構築したいと声を上げま

した。そのために産官学協力の1大プロジェクトを興すという無謀とも思われそうな計画に就いて、学内はもとより情報処理機器メーカーなど産業界からも支援の手が届き、スパコンと接続したパソコン教室の構築に目処が付いたのです。「愛工大卒業生である背番号が金色に輝くように教員も努力する」との約束を学生と交わり、金字塔建立に奮闘。大学事務局や先生の協力も得て文科省助成の獲得やマイクロソフトとのソフト使用契約締結などを進め、産官学協力のもと世界に誇るべき教育環境が実現しました。教員側の奮闘に啓蒙され、学生も的確に伝えてくれたことを、今でも鮮明に思い出します。

日本最大の電子情報通信学会が開催する学会(春季全国大会)の1991年度から2年間に渡る論文発表合計数で、愛工大は堂々全国区11位と健闘しました。学生達も勉学に励んだ証です。また、世界最大の学会IEEEで1研究室から5件の講演を実施し、世界第2位の記録を達成し、私もIEEEのCDMA部門セッション座長を務めさせていただきという誉に浴しました。さらに、学生達の講演を聞いた世界第1位の教授は、満座中チェアパーソン席から私を名指し、「講演内容に鋭い考察があり素晴らしい、良く指導され敬服する」と賞賛されました。当時すでに教え子達が世界に認められるまでに成長していた事実を報告し、これが愛工大へのエールになることを願っています。【岸】

科学技術庁(当時)のプロジェクトを受託し名古屋大学工学部の服部忠先生(後に本学客員教授)とともに知識ベースの研究を行ったことがあります。触媒反応の反応機構を推定する知識ベースシステムの開発で、かなり深い化学的知識を必要とする仕事です。当時、私は工学部経営工学科に所属し、研究室の学生も化学、それも触媒化学とは180度対極にいる者ばかりで、「化学」は形容詞に過ぎない分野の教育を受けた私の化学の知識も怪しいという状況ながら、研究費が高額なこともあり成果を期待されていました。触媒化学の知識を実際にプログラム作成するにあたり、化学と親和性のない学生達にどう伝えるかが問題です。付け焼き刃にせよ化学教育をしても間に合いませんので、化学や触媒の意味については一切考えず物質も変化もすべて「文字列」(記号)と考えてプログラム作成・データ整備を行うように指導しました。以前卒業研究で化学構造式を描画し印刷するプログラムを作らせて経験に基づいたものです。このアプローチがうまくいき、全受託機関による成果発表デモンストレーションも成功裏に終えました。連日、夜遅くまでプログラミングに精を出した学生達の頑張りもあってこそその結果でした。【松本】

また、私の研究室は大学内で最初にLANを稼働し、それを計算センターまで延長したものが最初の学内LANとなりました。当時は径が10mm以上もある「イエローケーブル」と証する同軸ケーブルを使ったネットワークで、排水溝を利用してセンターと研究室にケーブルを展開してくれました。【鬼頭】

機械学科2年生が授業で製作した自動車作品を、名古屋モーターショー 2011、2013、2015に展示できたことが心に残っています。多くの同窓生が来場されて声を掛けてくださいました。毎年栃木県で開催されるエコラン全国大会に、2012年から5年間参戦し、2泊3日の車中泊、温泉、大会観戦など学生と寝食を共にできたことも印象に残っています。

また、自動車研究室のピットは、ランクル100、エステイマ2AZ-FE&HV、ジムニー LJ20、初代カローラなど学生達と一緒にレストアした思い出深い場所です。気持ち良くジョギングをさせていただいた陸上競技場も、懐かしい場所です。【谷本】

教育・研究に全力で取り組みました。大学に泊まり込んで学生達と一緒に卒研の実験を行い、論文原稿を書き、コンパも…。毎週課したレポート180枚の採点は大変でした。形状記憶合金と形状記憶ポリマーの研究成果は世界的に高く評価され、研究の過程で国際交流と国際共同研究を進展させることができました。卒研生とは、若いときはソフトボール、サッカー、駅伝などを一緒に楽しみました。40年間で大きく成長した榎と楓の新緑のトンネル並木、秋に真っ赤に映えた紅葉の楓、春の色とりどりの美しいツツジなどは心に残る風景です。大学入口から陸上競技場までの長い登り坂は駅伝で苦しんだ思い出深い場所です。【戸伏】

「先生のフランス語の授業は大学の授業ではない」と学生に言われました。先生が一方的に話をし、学生は絶対に話してはならないのが大学の授業なのだから。試験はぶっつけ本番でしたが、満点を取る学生も毎年いて、その中の1人は「他の先生は前の週に試験と同じ問題をさせている。そんなクソ試験は受けたくねえ!」と…。1年生の受講生達から毎年異口同音に「来年も先生とやりたい!」と言われ、教師冥利を味うことができたのは最高の思い出であり、贈り物です。

八草キャンパスは緑が多く、見晴らしも良く、いつも気持ち良く過ごせました。とりわけ秋の紅葉は見事で、1本の木に緑、黄、赤と様々な色のグラデーションがあり、本当に美しいと思います。あの紅葉がもう見られないのが残念です。【松本】

戸伏壽昭先生の退職記念講演会を開催

2017年5月4日(木)に名古屋ガーデンパレスにて、機械学科の戸伏先生のご退職を記念する講演会とパーティーを開きました。1976年(昭和51年)から2016年(平成



28年)までの卒業生のうち108名が集まり、先生のご退職をお祝いするとともに昔を思い出しながら楽しい時間を過ごしました。お祝いにオリジナル焼酎とグラス、花束を贈呈いたしました。先生は2017年3月にご退職されましたが、現在は客員教授として、引き続き愛工大の教育・研究のお手伝いをされています。松井良介(H14M)、武田亘平(H20M)



※1 2017年度から客員教授
※2 2017年度から特任教授

敬称略

本部の会議		各種行事	
1月			
2月			
3月		<ul style="list-style-type: none"> 応化会「OB企業懇談会」(3/4) 平成28年度卒業式「瑞若賞」贈呈(3/23) 卒業生に記念品配布(3/23) 	
4月	第1回総務常任委員会開催(4/20)	<ul style="list-style-type: none"> 平成29年度入学式(4/2) 清酒「瑞若」選定会(5/16)(名古屋ガーデンパレス) 瑞若会(同窓会)企業展(5/20) 新会員のデータ入力(5/24) 新会員の同窓会費入金処理(5/24) 	
5月	第2回総務常任委員会開催(5/25)	<ul style="list-style-type: none"> 中・四国支部見学会・交流会(6/3)(アークホテル岡山) 「みずわか」編集委員会開催(6/6) 愛知県私立大学同窓会連合会平成29年度理事会・総会(6/21) 瑞若会奨学金授与(6/24) 清酒「三代目瑞若」販売開始(6/24) 関東支部総会(7/22)品川区立総合区民会館 職場支部近藤グループ愛工会(7/28) 	
6月	第1回事務局会議開催(6/15)	<ul style="list-style-type: none"> 岐阜AITオープンフォーラム(9/9)(岐阜グランドホテル) 岐阜県支部総会(9/9)(岐阜グランドホテル) 三重AITオープンフォーラム(9/16)(四日市都ホテル) 三重県支部総会(9/16)(四日市都ホテル) 北陸支部総会(9/23)(パレプラン高志会館) 静岡AITオープンフォーラム(9/30)(ホテルクラウンパレス浜松) 静岡県支部総会(9/30)(ホテルクラウンパレス浜松) 	
7月			
8月			
9月	第3回総務常任委員会開催(9/20)	<ul style="list-style-type: none"> 電気工学同窓会(10/7)(愛知工業大学) 愛工大祭 開催への援助(10/7・8) 工科展(10/7)「瑞若会(同窓会)特別賞」贈呈 関西支部講演会(10/14)(京都) 中・四国支部交流会(11/4)(アークホテル岡山) 駅伝大会(11/8)「瑞若会(同窓会)特別賞」贈呈 長野県支部交流会(11/25) 「みずわか vol.5」会員へ郵送 	
10月			
11月			
12月			

凡例: ●本部事業 ■学内事業 ◆支部事業 ▲その他

人事異動に関するお知らせ

新任教員(大学)	工学部電気学科	教	授	星野	博之			
	工学部電気学科	教	授	松村	年郎			
	工学部機械学科	教	授	田中	浩			
	情報科学部情報科学科	教	授	塚田	敏彦			
	基礎教育センター	教	授	岩野	佳英子			
	工学部機械学科	准	教	授	香川	高弘		
	経営学部経営学科	准	教	授	羽田	裕		
	基礎教育センター	准	教	授	小出	禎子		
	工学部建築学科	講	師	細淵	勇人			
	工学部応用化学科	助	教	宮本	寛子			
	昇任・昇格	情報科学部情報科学科	教	授	水野	勝教	63R	
	人事異動(卒業生関係)	工学部電気学科	准	教	授	元谷	卓	H16E
		キャリアセンター	課	長	奥田	好弘	62K	
		財務部管財課	課	長	西	裕之	H11K	
教学センター学生課		課	長	佐	崎澤	智美	H7K	
経営学部事務室		主	査	岩科	誠司	H11M		
総務部総務課		係	長	鬼頭	明	H9K		
財務部会計課		事	務	主任	稲垣	正織	H20TT	
退職教員(H29年3月31日付)		工学部電気学科	教	授	江口	一彦		
		工学部機械学科	教	授	戸伏	壽昭		
		工学部機械学科	教	授	谷本	隆一		
	経営学部経営学科	教	授	石垣	尚男			
	情報科学部情報科学科	教	授	鬼頭	繁治			
	総合技術研究所	教	授	岸	政七			
基礎教育センター	教	授	松本	伊瑳子				
工学部機械学科	准	教	授	古市	裕司	47M		
基礎教育センター	准	教	授	阪本	将暢			

平成28年度 決算書(単位:円)				
経常経費(平成28年4月1日から平成29年3月31日まで)				
■収入の部				
科目	予算額	決算額	差額	備考
入会金(基本金)	9,750,000	9,950,000	200,000	※入会金10,000円×991人 4,000円×10人
終身会費	39,000,000	39,840,000	840,000	※終身会費40,000円×991人 20,000円×10人
年会費	0	0	0	
受取利息	60,000	57,494	△2,506	
雑収入	0	468,653	468,653	
当期収入合計①	48,810,000	50,316,147	1,506,147	
前期繰越金②	27,761,617	27,761,617	0	
収入の部合計①+②	76,571,617	78,077,764	1,506,147	
■支出の部				
科目	予算額	決算額	差額	備考
学科・支部援助費	6,500,000	3,487,747	△3,012,253	
名簿管理・IT関連費	1,500,000	1,207,218	△292,782	
会報発行費	8,500,000	7,669,977	△830,023	
大学祭援助費	600,000	600,000	0	
卒業記念品費	3,000,000	2,420,820	△579,180	
準会員支援費	2,000,000	1,382,771	△617,229	
準会員奨学費	5,000,000	5,000,000	0	
[小計]	27,100,000	21,768,533	△5,331,467	
人件費	3,100,000	2,905,373	△194,627	
消耗品費	500,000	392,775	△107,225	
会議費	1,500,000	1,484,751	△15,249	
慶弔費	300,000	82,661	△217,339	
私大同窓会連合会	150,000	108,000	△42,000	
雑費・手数料	500,000	155,773	△344,227	
[小計]	6,050,000	5,129,333	△920,667	
予備費	500,000	0	△500,000	
基本積立金へ	9,750,000	9,950,000	200,000	
義援金及び寄付金	500,000	500,000	0	
当期支出合計③	43,900,000	37,347,866	△6,552,134	
当期収支差額④(①-③)	4,910,000	12,968,281	8,058,281	
記念事業準備費へ⑤	3,000,000	3,000,000	0	
次期繰越金⑥(②+④-⑤)	29,671,617	37,729,898	8,058,281	
支出の部合計③+⑤+⑥	76,571,617	78,077,764	1,506,147	

基本積立金(平成28年4月1日から平成29年3月31日まで)				
■収入の部				
科目	予算額	決算額	差異	備考
経常経費から繰入	9,750,000	9,950,000	200,000	
前期繰越金	225,066,087	225,066,087	0	
収入の部合計	234,816,087	235,016,087	200,000	
■支出の部				
科目	予算額	決算額	差異	備考
次期繰越金	234,816,087	235,016,087	200,000	
支出の部合計	234,816,087	235,016,087	200,000	

記念事業準備費(平成28年4月1日から平成29年3月31日まで)				
■収入の部				
科目	予算額	決算額	差異	備考
経常経費から繰入	3,000,000	3,000,000	0	
前期繰越金	9,000,000	9,000,000	0	
収入の部合計	12,000,000	12,000,000	0	
■支出の部				
科目	予算額	決算額	差異	備考
次期繰越金	12,000,000	12,000,000	0	
支出の部合計	12,000,000	12,000,000	0	

会員計報

卒業学科	卒業年	氏名	卒業学科	卒業年	氏名
電気工学科	1962	加藤 久雄	1977	伊藤 義正	
	1965	平松 敏弘	1989	秋山 勝利	
	1967	山田 正朝	1970	須藤 正次	
	1970	森 佳彦	1978	鬼頭 良	
	1972	加藤 澄夫	1979	稲垣 正弘	
	1977	岡田 勉	1983	古井戸 法明	
	1982	稲葉 豊浩	建築学科	1972	浜野 秀雄
	1989	岩瀬 裕俊	1977	高野 俊次	
	1996	水野 善一	経営工学科	1975	田中 秀人
	電子工学科	1981	河村 達也	1976	鈴木 基之
応用化学科	1984	山本 富博	1982	石川 雅喜	
	1967	柳橋 征二	1985	足立 泰彦	
	1973	川口 文雄	経営学科	2012	原田 貴史